

月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.143

エステル&ヨシュアたちは
《輝く環》そしてワイスマンに立ち向かう！

英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～

もうすぐハッピーニューイヤー！……だけど!?

も～っと集まれ！ファルコム学園

今年の晴着を身にまとうのは誰か!?

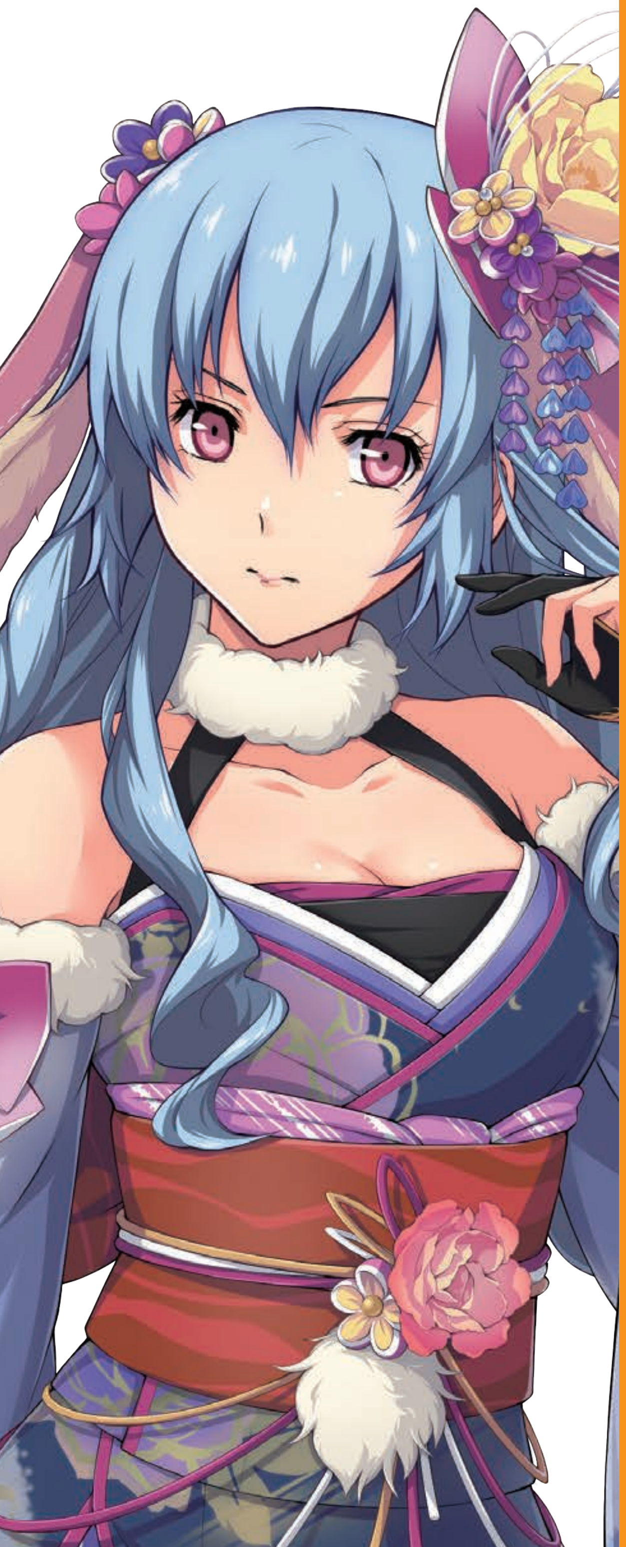
『英雄伝説 暁の軌跡』

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

アドル・クリスティンの冒険はついに『X』へ！

『イースX -ノーディクス-』2023年発売決定！



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

アドルの冒険はついに『X』へ！ イース最新作『イースX -ノーディクス-』2023年発売決定！



イースX -ノーディクス-

- ●発売日：2023年予定
- ●ジャンル：アクションRPG
- ●対応機種：Nintendo Switch、PlayStation5、PlayStation4
- ●プレイ人数：1人
- ●CEROレーティング：審査予定

生まれた瞬間、人は皆自由である。
そこにはまだ何の束縛もない。

だが年を重ねると様々な力に縛られる。
次第に自由を奪われていくのだ。

そして、いつしか自由へ戻ることに恋焦がれる。

だが――

本当はいつでもそこへ戻れるはずである。

アドル・クリスティン著　『北人の失楽園』本文より～

©2023 Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.



1987年に発売された第1作以降、日本のアクションRPGを牽引し続けてきた『イース』シリーズもついに35周年！　そのナンバリングタイトルとなる『イースX -ノーディクス-』が、2023年にマルチプラットフォームで発売されることが決定した！
物語の舞台は、大小無数の島々が存在する北の海《オベリア湾》。アドルはそこで、海洋民族《ノーマン》、そして人々を襲う不死の亡者《グリーガー》と出会うこととなる。





POINT シリーズ初の試みとして帆船の操作が可能に！

今作は、北の海が舞台ということもあり、シリーズ初の試みとして、帆船の操作が可能に！　海図を手掛かりに広大な海域を探索したり、時には敵船との海戦に挑んだりと、シリーズの醍醐味でもある“冒険する楽しさ”に新たな要素がプラスされている。



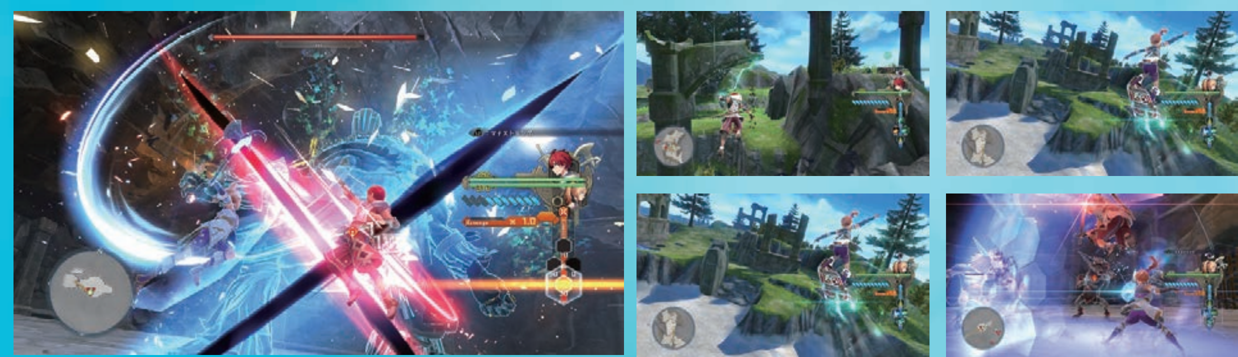
KEYWORD01 オベリア湾

グリア北西部に位置しており、湾の内部には大小無数の島々が存在している。
その風光明媚な景観とは裏腹に、この海域を実質的に支配するのは北東から渡ってきた《ノーマン》と呼ばれるならず者たちである。
島々が密集しているため、潮の満ち引きによって狭い海峡には複雑で急な潮流が生まれる等、難所としても知られている。
海をよく知るノーマンたちが居を構えるには絶好の海域なのかもしれない。



『イース』といえばアクション！バトルシステムを大幅に一新！

毎シリーズ、爽快で軽快、なおかつやりごたえたっぷりなアクションで楽しませてくれる『イース』だが、今作では『イースⅨ』までに採用されていたバトルシステムが大幅に一新されるようだ。そのひとつである新システム「クロスアクション」は、プレイヤー操作と相棒の自動攻撃＆サポートで戦うスピーディな“ソロモード”と、一連のアクションを二人一組で同時に操作し、強敵との攻防を繰り広げる“コンビモード”という２つのモードを、状況に応じて戦いに挑んでいく。また、フィールド＆ダンジョンでの自由度を大幅に拡張する特殊能力『マナアクション』といった新システムも導入されるとのこと。詳細は続報を待て！



KEYWORD02 バルタ水軍

オベリア湾のバルタ島に定住するようになったノーマン達の武装船団。
湾内で船の略奪や通航料を取るといった行為を働き、メドー海で有名な《隻眼のラドック》と並ぶ海賊として恐れられている。
その一方で通航料を収めた船を護衛して海上の安全を保障するため、イスパニとロムン帝国の紛争地が近いにも関わらず一定の秩序が保たれている。

あの名作がNintendo Switchで蘇る！『イース・メモワール -フェルガナの誓い-』2023年春発売！





イース・メモワール -フェルガナの誓い-
●発売日：2023年春予定
●ジャンル：アクションRPG
●対応機種：Nintendo Switch
●プレイ人数：1人
●小売価格　：未定
●CEROレーティング：審査予定

2010年にPlayStation Portable版として発売された『イース フェルガナの誓い』が、2023年春に『イース・メモワール -フェルガナの誓い-』として、Nintendo Switchで発売されることが決定した。爽快なバトルはもちろんのこと、重厚なストーリーに、数多くの名曲が盛り込まれたBGMと、様々な要素で圧倒的な支持を受け、シリーズでも屈指の名作として知られる本作。今回は、HDリマスター＆新規要素がプラスされ、さらなるグレードアップを遂げて蘇る。

POINT ❶ イベントシーンフルボイス&冒険家アドルに待望のボイスを追加!

総勢30名位以上の全キャラクターによるボイスイベントに加え、主人公アドル・クリスティン（CV：梶裕貴）にもボイスを新規追加！
銀河万丈氏によるナレーションとあわせて、物語をよりドラマチックに演出！

POINT ❷ HDリマスター&高音質化

PSP版からＨＤ画質へのアップグレードでより鮮やかなグラフィック表現を実現しているほか、BGM、各種SEも高音質化されています。



POINT ❸ サウンドは3種類の切り替えに対応

サウンドはPC版「イース フェルガナの誓い」で採用された「オリジナル版」のほか、元祖「PC-8801版」、「X68000版」の3種類から選択可能

POINT ❹ ハイスピードモード搭載＆初心者向けのサポート機能に対応

フィールド移動～バトルを1.5倍、2.0倍に変更できるは「ハイスピードモード」を新機能として搭載!　ワンボタンで切り替え可能で、ゲームプレイがより快適に!
また、高所から落下してしまってもノーダメージで即復帰可能な「Not Fall」機能など、アクションゲーム入門者向けの各種サポート機能も搭載しています

©2005-2023 Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.

★あと数回寝るとお正月だ!★



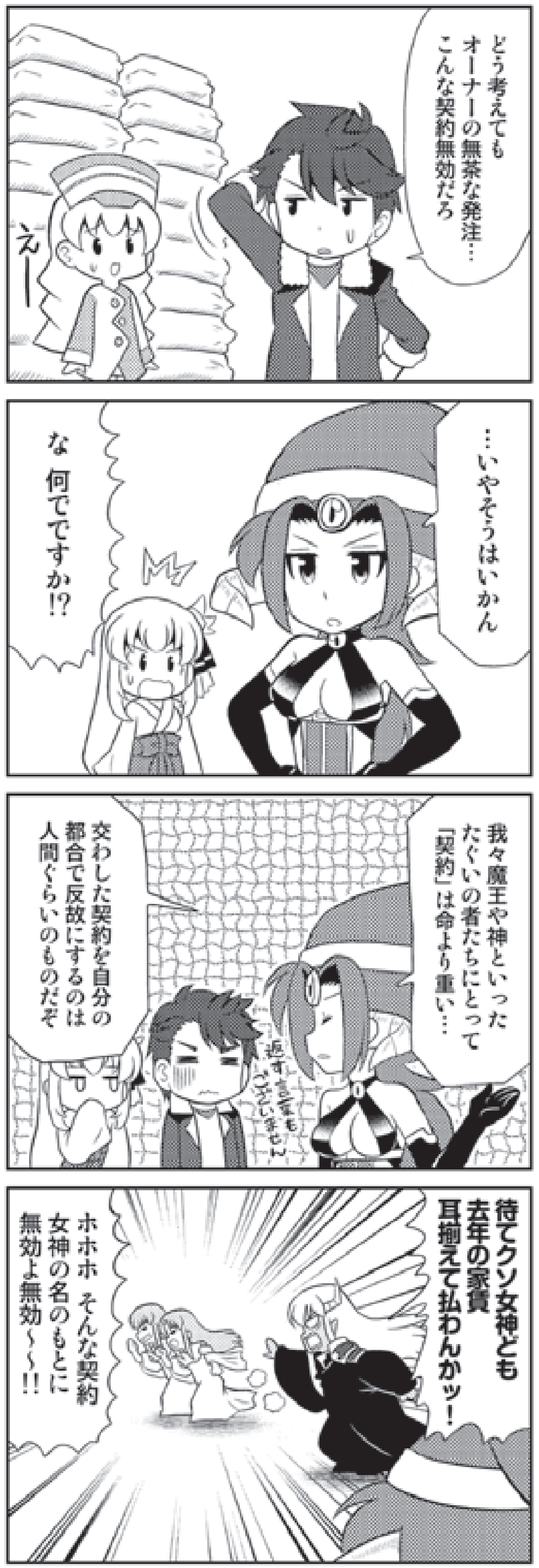
ケーキ売りの魔王



売れ残る原因



神と契約



放っておけない理由



根本的な認識



ケーキが売れる日



ならではのケーキ



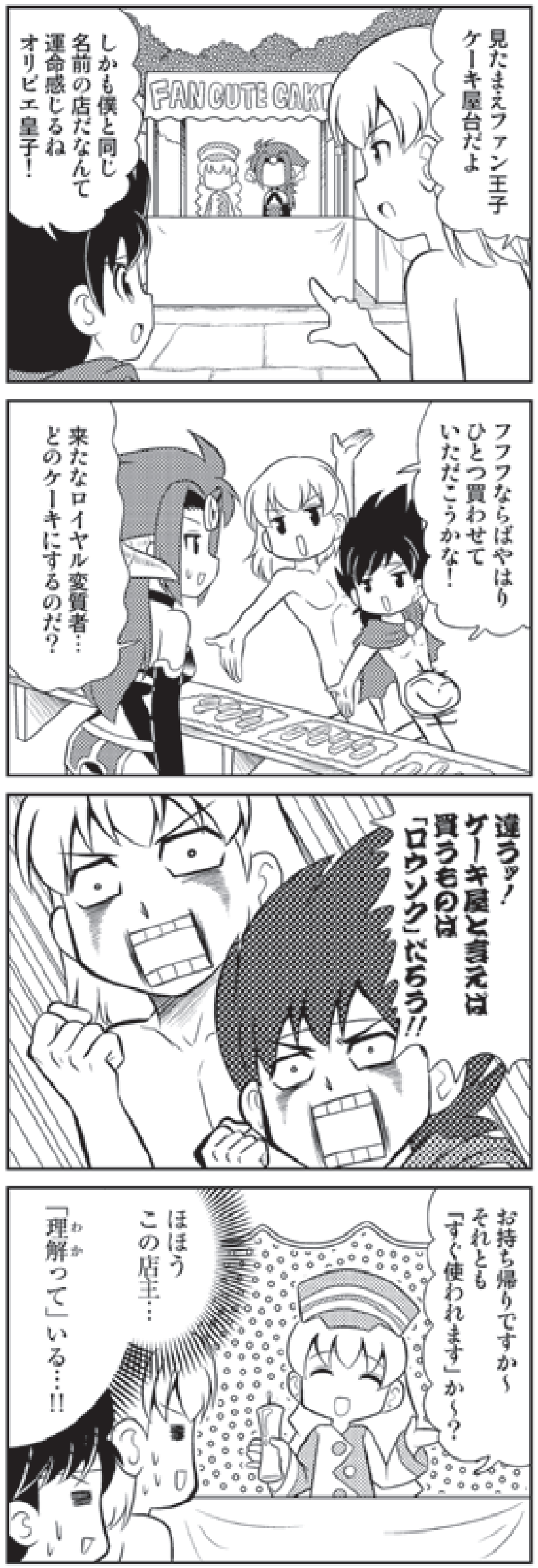
裏解決屋の責任



黒い狂犬



ケーキ屋と言えば



モナくんのアライメント



更なるひと押し



所長の誤算



畏怖と敬意





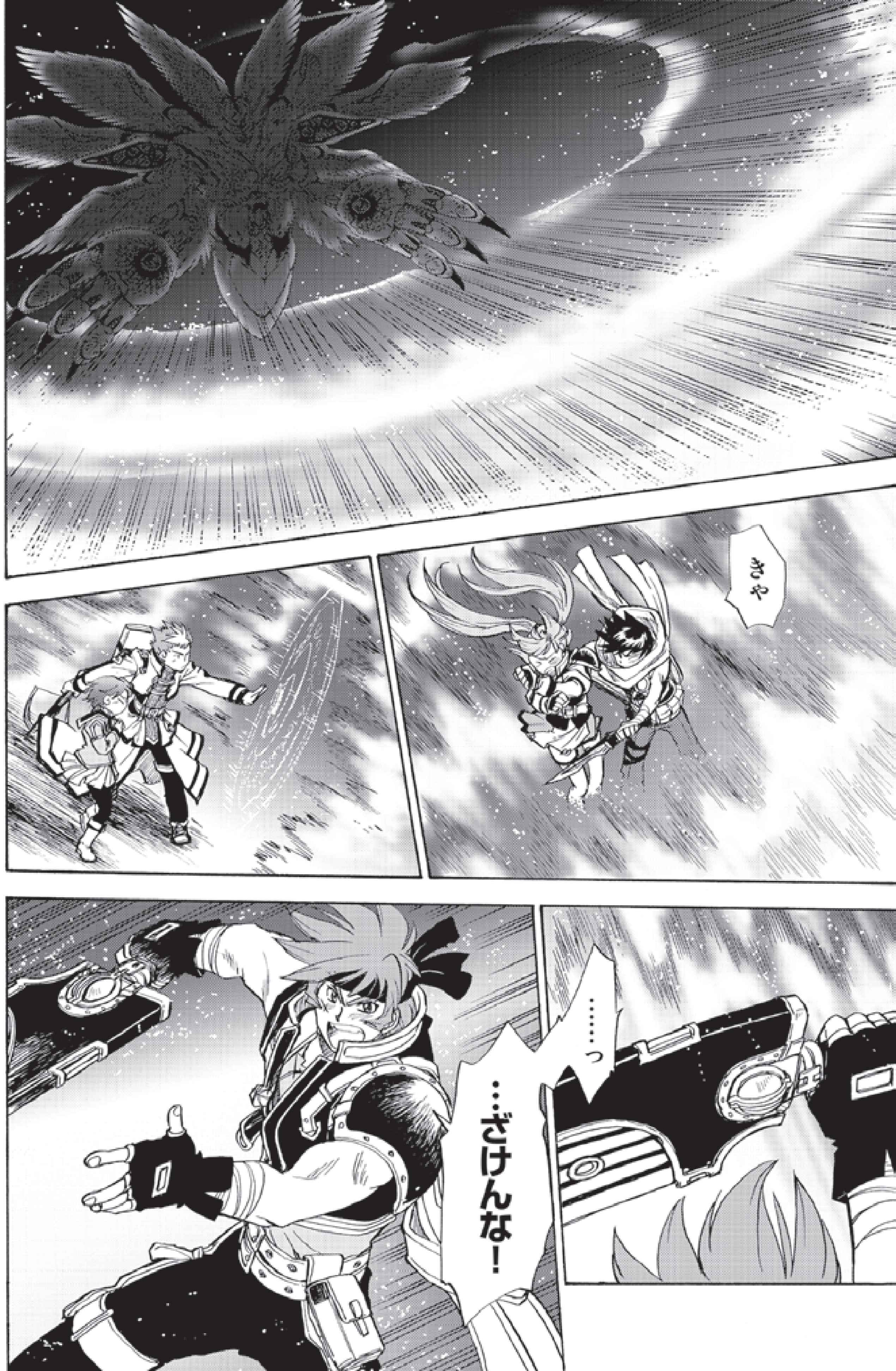
空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画　啄木鳥しんき
原作　日本ファルコム
な
なんなの…
まさか
《環》と融合しとるんか!?



穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースIX」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！待望の第2巻だよ！
も～っと集まれ!
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体900円+税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ　フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
発売：メディアパル　ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks




これが《輝く環》…？
まるで…天使のような…
ククク…人を新たな段階へと導く《天使》
その巨いなる力を思い知るがいい


きゃ
……っ
…ざけんな!


てめぇみたいな化け物に
導いてもらわなきゃならねぇほど
俺たちは
落ちぶれちゃ
いねぇ!!


あなたはあなたで目指すものがあるのかもしれないけど
それは他者に犠牲を強いてまで強行するべきことではない
もうこれ以上は…
リベールの民を傷つけさせるわけにはいきません！
私にはリベール王国を守る義務があります


リベールの市民として
遊撃士として
なにより人として！
ワイスマン！
僕たちは
あなたを倒す！
次回に続く


英雄伝説
閃の軌跡06
原作／日本ファルコム
脚本／恵村まお　漫画／さがら梨々
A5判　160P　定価：本体991円+税
ISBN 978-4-8021-3123-0
©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©SAGARA RIRI 2018
好評発売中!!
エレボニア帝国に吹き荒れる陰謀の嵐！
時代が選ぶのは果たして誰か!?
そして友という絆に背を向け、
両雄相まみえる！
激動のクライマックス！
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks


リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて！
リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する！
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税）　ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ　発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y
◉フィールドワイ公式HPはこちら➡ www.field-y.co.jp
◉ファルコムブックス公式HPはこちら➡ www.field-y.co.jp/falcombooks

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

『英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN-』オリジナルサウンドトラック上巻・下巻が2023年2月20日（月）に発売！

『英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN-（クリムゾン・シン）』の劇中曲を収録した4枚組音楽アルバム『英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オリジナルサウンドトラック』が2023年2月20日（月）に発売。スリーブ仕様の上下巻セットも同時発売します。

英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オリジナルサウンドトラック【上巻】

【上巻】では解決事務所の日常をテーマにした『Hard-Boiled Short Cake』や通常戦闘曲『Work Out a Solution!』、第Ⅱ部用戦闘曲『黒月緑乱』など、プロローグから物語中盤にかけてストーリー本編で使用された楽曲を中心に収録。



プロローグ～物語中盤までを彩る怒涛の46曲を収録した、待望のオリジナルサウンドトラックが登場！

■**発売日**：2023年2月20日（月）
■**価格**：【CD盤】2,000円（税抜）
【DL版】833円（税抜）
【ハイレゾ音源版】833円（税抜）
※DL版、ハイレゾ音源版はDisc1、Disc2それぞれの販売価格となります。
■**収録曲数**：全46曲（CD2枚組）

英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オリジナルサウンドトラック【下巻】

【下巻】となる本作では、OP曲『CRIMSON SiN』、ED曲『現在（いま）という煌き』のフルバージョンに加え、『Days Gone By』『匣の中に在るのは…』などアップデートで追加された《御伽の庭城（メルヒェンガルテン）》アフターストーリー用の楽曲もまるごと収録！



OP「CRIMSON SiN」、ED「現在という煌き」フルバージョンを収録した、オリジナルサウンドトラック第2弾。

■**発売日**：2023年2月20日（月）
■**価格**：【CD盤】2,000円（税抜）
【DL版】833円（税抜）
【ハイレゾ音源版】833円（税抜）
※DL版、ハイレゾ音源版はDisc1、Disc2それぞれの販売価格となります。
■**収録曲数**：全44曲（CD2枚組）

英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オリジナルサウンドトラック【上下巻セット版】

「英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN-」オリジナルサウンドトラック「上巻」「下巻」の2作品をセットにした、全90曲収録のコレクターズアイテム。作品のタイトルにもなっているCRIMSON SiN（クリムゾン・シン）をイメージした専用スリーブケースに上巻・下巻を収納した、完全版仕様のオリジナルサウンドトラックとして同時発売致します。※収録曲は単品発売の上巻・下巻と同じです。



■**発売日**：2023年2月20日（月）
■**価格**：【CD盤】4,000円（税抜）
【DL版】3,333円（税抜）
【ハイレゾ音源版】3,333円（税抜）
■**収録曲数**：全90曲（CD4枚組）
※「英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オリジナルサウンドトラック【上巻】」、「英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オリジナルサウンドトラック【下巻】」を専用スリーブケースに収納したセット商品となります。

■**音楽配信サイト**
《iTunes. Store》http://itunes.apple.com/jp/artist/id120174391
《Amazon Music》http://j.mp/VSjC6N
《mora》http://mora.jp/artist/299183/all
《music.jp》http://music-book.jp/music/Artist/141849/Album

■**ハイレゾ版音源配信サイト**
《moraハイレゾ配信ページ》
http://mora.jp/artist/299183/h#discArea
《music.jpハイレゾ配信ページ》
http://music-book.jp/music/Artist/141849/hiresoalbum
《e-onkyo music》
http://www.e-onkyo.com/search/search.aspx?label=Falcom
《OTOTOY》https://ototoy.jp/_/default/a/124419
※ハイレゾ音源版は全曲96kHz／24bit（WAV＆flac）となります。
※「iTunes. Store」では高音質・DRMフリーのiTunes Plusで世界111ヶ国、ファルコム楽曲5,204曲を配信。

■**定額制音楽配信サービス**
《Spotify》
https://open.spotify.com/artist/5WFofzgRxpVNkpwg9XRSdg
《Amazon music》
https://music.amazon.co.jp/artists/B00B4R35JQ/falcom-sound-team-jdk
《Apple Music》
https://music.apple.com/jp/artist/falcom-sound-team-jdk/120174391
《YouTube Music》
https://music.youtube.com/channel/UCOOOdHr4emlkr02wjynGF3Q

■**「英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN-」公式サイト**
https://www.falcom.co.jp/kuro2/
■**「ファルコム 音楽CD」情報ページ**
https://www.falcom.co.jp/music
■**ファルコム音楽フリー宣言**
https://www.falcom.co.jp/music-use

© 2022 Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.

『コミックマーケット101』工画堂スタジオブースで新作グッズ発売！ 事後通販も予定

12月30日（金）～31日（土）に開催される『コミックマーケット101』に工画堂スタジオが出展。ブースではファルコムコラボ新作グッズも発売されます。

●**イベント名：コミックマーケット101**
■**開催日**：2022年12月30日（金）、31日（土）
■**開催時間**：10時30分～16時00分
■**会場**：東京ビッグサイト（南展示棟）
※入場には事前にチケットが必要となります。当日販売はありません。詳しくは下記をご確認ください。
https://www.comiket.co.jp/

●**工画堂スタジオブース**（南1･2ホール No.426）
《工画堂スタジオ出展情報》
https://www.kogado.com/sw/contents/hotnews/22winter_c101_h7d08j.htm

工画堂スタジオブースにおいて、ファルコムグッズのお買い物をしていただいた方に「黎の軌跡II 特製ステッカー」全8種のうちランダムで１枚プレゼント！

新作グッズ



◀**開運招運 アルティナ絵馬　¥800**
卯年にぴったり！ 開運間違いなしのアルティナの絵馬。



HOT SHOTイラストを使用したB5サイズのアクリルプレート。飾りやすいサイズなので玄関やデスクにもぴったり！

▲**「軌跡シリーズ」B5アクリルプレート（全3種）　各¥3,000**



ファルコムマスコット トレーディングモーテル風キーホルダー（全7種）　ランダム1点¥600▶
ファルコムマスコットたちのモーテルキーのようなアクリルキーホルダーが登場！ キャラクターのイメージカラーのグラデーションがキュート！

▼**「英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ」アクリルダイカットスマホスタンド（全6種）　各¥1,500**
アクリルで作られたスマホ用スタンド。机の上などで自立することができ、スマホを置いておくこともできます。



《その他、ファルコムグッズ販売に関する情報はこちら》
https://www.falcom.co.jp/archives/48229
※新作グッズは後日オムニショップにて事後通販を予定しておりますが、一部予約商品となる可能性がございます。

コトブキヤ×日本ファルコムが贈る『軌跡シリーズ』フィギュア化計画第4弾「クロウ・アームブラスト」1/8スケールフィギュアの予約受付スタート！



はためくコートや身に着けているアクセサリー、武器に至るまで細かなディテールを忠実に再現。
愛用の双刃剣を肩に担ぎ、彼の強さと余裕さが垣間見える堂々とした佇まいで立体化しました。
台座には、相棒である《蒼の騎神》オルディーネがプリントされています。

■**豪華DX版も同時発売！**
豪華DX版には、クロウのもう一つの戦闘スタイルであるガンナーモードを再現するための2丁の「導力銃＋持ち手」と、戦闘中の真剣な表情が楽しめる「叫び顔パーツ」、さらに要望の多かった「リィン・シュバルツァー」（別売り）用の「微笑み顔パーツ」が付属。



■**コトブキヤふぃぎゅあブログ**
https://www.kotobukiya.co.jp/figure-blog/figure-blog-298831/

■**通常版**：¥20,900（税込）
《コトブキヤオンラインショップ》
https://www.kotobukiya.co.jp/product/product-0000004718/
《エビテンゲームの電撃ストア》
https://ebten.jp/dengeki/p/4934054049707

■**DX版**：¥24,200（税込）
《コトブキヤオンラインショップ》
https://www.kotobukiya.co.jp/product/product-0000004717/
《エビテン ゲームの電撃ストア》
https://ebten.jp/dengeki/p/4934054044092
※DX版はコトブキヤショップおよびエビテンゲームの電撃ストアでの限定販売となります

12月の
新／衣装替えキャラクターをチェック！



晴着・クレア
（12 月 28 日実装予定）

毎年恒例になっている年末の晴着衣装を今回身にまとうのはクレア！ イメージカラーのブルーの晴着を大人の魅力たっぷりに着こなしながらも、卯年を彷彿とさせるヘアアクセサリーでキュートさもプラス！

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡
アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
祝！ 12 月は年末ということで、クレアが艶やかな装いで登場！
メインストーリーが完結しても、『暁の軌跡』はまだまだ終わらない！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/
公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

期間限定イベント 「ナハトの奮闘記 Vol.21 カルナ編」を実装！

リベールに滞在していたナハトは急遽カルナに呼び出される。
「いい機会だから、ナハトにもクロエと同じ訓練を受けさせてやろうかと思ってねえ」と微笑むカルナ。若干の恐怖を感じながらも先輩の特別訓練を受けることになったナハトに思いがけない試練が与えられるのだった。



※現在は開催終了しています

※画像は開発中のものです。※上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

© Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.　© USERJOY JAPAN Co., Ltd. All Rights Reserved.　© USERJOY Technology Co., Ltd. All Rights Reserved.

第6話

『キーアのいちにち』

特務支援課メンバーが過ごす
クロスベル自治州のゆる～い(?)日常！

英雄伝説 零の軌跡
～午後の紅茶にお砂糖を～



©YUKIYA MURASAKI, KUBOCHA

最終回

エレボニア帝国とカルバード共和国という大国に挟まれながらも、自治州として独立していたクロスベルを舞台とした『零の軌跡』、『碧の軌跡』シリーズ。続編となる『閃の軌跡』、『創の軌跡』においても激動の中にあり、様々な壁が立ち塞がっていたが、怯むことなく立ち向かっていったのがロイド・バニングス率いる特務支援課メンバーだ。そんな特務支援課メンバーが、もしかしたら過ごしていたかもしれない日常を描く、魅力たっぷりの一冊をご堪能あれ！

製品情報
好評発売中
著　　　：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
定　　価：1,210円（税込）

チチチ……と小鳥の鳴き声がする。

窓からはもう朝の陽光が差しこんでいる。

静かな寝息が、やむ。

「んにゅ」

ライムグリーンの髪の幼い女の子が、ベッドのなかで身じろぎをひとつ。

もう一度、チチチ……と、さえずりが聞こえる。

「ん？　あ……もう、あさ？」

幼い女の子がまどろみから浮かびあがる。つぶやきに答えるかのように小鳥が再三の声をあげる。

チチチ……

「え？　そんな時間⁉」

勢いよく起きる。

ぱちっと目を開いた彼女の瞳は、きれいな金色をしている。

意志の光が宿り、その想いを伝える手が、ふわりと持ち上がると、まだ隣で眠っている青年の顔へと舞い降りる。

ぺちぺちと頬を叩く。

「たいへん、たいへん！　ロイド、朝、朝！」

「うっ、わっ……なんだ⁉」

ロイドと呼ばれたブラウンの髪の青年は、不作法な頬への来襲者から逃れるように顔をそむけつつ、体を起こす。

「や、やあ、おはよう……キーア」

「おはよ、ロイド！　もう朝だよ！」

「ん？」

青年はベッドの脇に置いてある《ＥＮＩＧＭＡ（エニグマ）》――戦術オーブメントのうち第５世代のものを指す――を手に取る。

無機質な導力器が告げるのは、とうに起床時刻が過ぎているという無慈悲な事実。

ロイドは魔獣から攻撃をされたような悲鳴をあげる。

「うわっ⁉」

「ちこくしちゃう！」

「キ、キーア、急ごう‼」

「うん！」

言いながらふたりはベッドから飛び出す。

ロイドはクローゼットからシャツやズボンを取り出し、寝間着を脱ぎ捨て、着替えはじめる。



キーアのほうは服を置いてあるのが自分の部屋なのでドアへと足を向け……

あ、と窓へと振り返る。

外に向けて。

「鳥さん、起こしてくれてありがと～‼」

満面の笑みを浮かべ、小さな手を大きく振ると、今朝は玄関の前にパンをちぎって置いておこうと決め、それから部屋の外へ出る。

今日もいい天気になりそうだ。

紫色のシャツに白色のパーカーを羽織り、オレンジ色のスカートをはく。

着替えを済ませたキーアは三階にある自分の部屋から一階まで階段を駆け下りる。

トントントントンと後を追いかけてくるのは、お尻まである長い髪。

キーアの住んでいるのは特務支援課ビルという。特務支援課は、この街――クロスベルを守る警察のいち部署であり、すこし風変わりではあるが、ロイド・バニングスは捜査官で、キーアは養われの身だ。

そして、支援課ビルにはロイドとキーアの他に四人と二匹の仲間がいるのだが、それは

追々……
先に着替えを済ませていたロイドが、もう台所に立っている。
「やあ、おはよう、キーア」
「おはよっ、ロイド！」
起き抜けのときは、お互いに大慌てだったので、改めて挨拶を交わす。
ロイドが苦笑いを浮かべる。
「あやうく、みんなの朝食が遅くなるところだったよ。起こしてくれてありがとうな、キーア」
「えへへ、今日はロイドが朝ごはんの当番だったもんね。あ、《モルジュ》には行かないの？」
西通りにあるベーカリーカフェ《モルジュ》の焼きたてパンときたら、外はサクッとして香ばしく、中はやわらかくてふわふわしていて、頬が緩む美味しさなのだ。
「うーん……買い物してる時間はなさそうだな。堅焼きパンがあるから、こちらにしておこう」
「うん、そうだね」
「あとは、スクランブルエッグを作るとして……ハムを焼こうかな？」
「じゃあね、キーアはスープを作る！」
「大丈夫か？　たいした材料は残ってないけど……」

「少しお野菜があれば、だいじょうぶだと思う」
「そうか。頼もしいな」
「えへへっ」
料理をしているうちに、とんとん、と上品な足音が降りてくる。
パールグレイの髪を腰まで伸ばした美しい少女が、キッチンに顔を出す。支援課の仲間であるエリィ・マクダエルだ。
キーアは元気いっぱいに挨拶する。
「エリィ、おはよ！」
「おはよう、キーアちゃん、ロイド」
「やあ、おはよう、エリィ。すまないが、もうすこし待っててくれ」
「なにか手伝いましょうか？」
「ありがとう。皿を出してくれるかな？」
「ええ、わかったわ」
ことり、ことり、と静かな音をたてて皿がならべられていく。エリィが扱うと、いつも使っている器なのに、ちょっと高級品になったように感じられるから不思議だ。
朝食の用意ができた頃、ライトブルーの髪に白い肌の少女が姿を見せる。
ティオ・プラトーだ。

なぜか、ぬいぐるみを引きずって。
みっしぃというクロスベルで大人気のマスコットキャラクターで、ＭＷＬ（ミシュラムワンダーランド）なんていう遊園地までである。
「やあ、ティオ、おはよう」
ロイドが挨拶すると、ぼんやりした表情だった少女の頬に、朱が差しこむ。
「うっ、あ……これは……」
「ティオちゃん、顔、洗ってきたら？」
「そ、そうします」
エリィに言われ、ティオがそそくさと洗面所へ消える。
どうやら、すこし寝ぼけていたらしい。
しばらくして再び現れたティオは、どこへしまったのか、ぬいぐるみを手にしておらず、胸甲をつけ、いつものクールな表情を見せる。まるで先ほどの寝ぼけた姿などなかったかのように。
「おはようございます、ロイドさん、エリィさん、キーア」
「ああ」
「おはよう、ティオちゃん」
「おはよ、ティオ！」

特務支援課の課長は、いつも朝食には姿を見せないので残るはひとりだけ。
エリィが首をかしげる。
「ランディはどうしたのかしら？」
「……まだ眠ているようですね」
「昨夜は遅かったみたいだからな。今日は非番だし、ゆっくり寝かせておいてやろう」
ロイドの言葉に、みんながうなずく。
「じゃあ、いただきまーす！」
キーアが手を合わせ、すこし賑やかな朝食の時間となる。
そうそう、とキーアはパンをすこしちぎって、ポケットにしまう。
あとで、玄関の前に置いておくのだ。



支援課ビルの玄関を入ってすぐの場所には、ソファーとテーブルがあり、応接スペースとなっているのだが、もっぱら、キーアはリビングとして使っている。
ここで、本を読んだり、歌を歌ったり、ツァイトとおしゃべりして過ごす。
ツァイトは警察犬として支援課ビルにいるが、本当は伝説の白狼らしい。

応接スペースは、居心地がいい。なにより、ロイドたちが仕事から帰ってきたとき、一番に出迎えることができるから。
　キーアは図書館で借りてきた本を広げる。
　そこへエリィがやってきて。
「あら、キーアちゃん、絵本を読んでるの？」
「うん！　エリィも見る？」
「ふふ……じゃあ、いっしょに見ましょうか」
「えへへっ、やった！」
　ソファーにならんで座り、絵本を開く。
　こうしていると、まるで母娘のようにも見えそうだが、そういうことを言うとエリィが「まだ18だから……」と真剣な顔をするので控えておく。
　絵本をエリィが美しい声で読み上げる。
「――おれいに、トマトをたくさんもらいました。ミネストローネをつくりましょう、と姉のジーナがいいました。あたたかい、ミネストローネをいっぱい……」
「ねえねえ、エリィ、ミネストローネってなに？」
「トマトを使ったスープかしら？　私も食べたことはないけど……この絵本の書かれた国の鍋料理みたいね」

　本には、大きな鍋で赤いスープを作る姉弟（きょうだい）の絵が描かれている。
　冬は雪に閉ざされて、買い物に出かけるだけでも大変な国であるらしい。
「トマトのスープってどんな味なのかしら？　なんにしても、きっと体の温まる料理なのでしょうね」
「きっとそうだね！　面白いよね、エリィ。絵本には、寒い国がすごく大変って書いてあるけど、書いたひとは、この国のことが大好きなんじゃないかな？」
「私もそう思うわ」
「でも、この国のことが好きなんて書いてないのに、不思議だね」
「そうね……直接的に書いてある下りはないわ。これは間接的表現というものだけど……」
「んと、エリィは、どのへんから読み取ったの？」
「んー……この下りは象徴的よね。姉弟が母親のために暖かい料理を作るところ。寒くて大変な国だからこそ、家族が互いのことを大切に想っているのが伝わってくるわ」
「お母さんのためって書いてないのにね」
「そうね。だとすると、作者が一番表現したかったのは……あっ」
「なに？」
「楽しく絵本を読んでるのに、考察とか興醒めよね。まるで留学先の学生たちと話してるみたいな気分になっちゃって……キーアちゃん、ときどき鋭いことを言うから、びっくり

しちゃうわ」
「えへへっ、そうかな?」
「そうよ。さっきの洗濯の下りでも……あ、そういえば、私、洗濯物を干さないと」
エリィが腰を浮かせる。
「ごめんなさい、キーアちゃん。また後でね」
「お洗濯? キーアも手伝う!」
「まあ、ありがとう」
カゴに洗濯物を入れて、屋上へと階段をのぼっていく。
途中でロイドと会う。
「お、今から干すのか……手伝うよ、エリィ」
「そんな、悪いわ」
「朝食の準備を手伝ってもらったから、お互い様さ」
「そう? じゃあ、お願いするわね」
「キーアも手伝うよ!」
「おっ、えらいぞ、キーア」
三人で屋上に出る。

導力を利用した洗濯機が開発されたのは、それほど昔のことではない。
まだ手洗いで済ませる家庭もあるが、政府や警察には企業が試験運用を兼ねて目新しい製品を提供してくれている。
例えば、この支援課と警察本部をつなぐ導力ネットワークも、魔法(アーツ)を使うために必要な戦術オーブメントも、エプスタイン財団から提供されたものだ。
最新装備のおかげで捜査が効率的になる反面、急な仕様変更で面倒が増えることもあるのだが。
いずれにしても、洗濯物をお日様に当てるのは、鉄の塊が空を飛ぶほど導力技術が進歩している今日(こんにち)でも、人の手によって行われるしかなかった。

「キーアちゃん、そっち持った?」
「うん!」
「じゃあ、広げるわね」
シーツの端と端を持って、キーアはエリィといっしょに大きな白布を物干し竿へとかける。
ぴんと引っ張ると、シワが消えて寝心地がよくなるのだ。
ほどよい風が、支援課ビルの屋上を撫でていく。

「あ……みなさん……」
屋上の入り口を見ると、ティオが手に黒色の物を持って立っている。
はて？　とキーアは思う。
ロイドとエリィも首をかしげる。
どこか、いつもとティオの雰囲気が違う。
なにかが足りないような。
「あの……これも干したいのですが……場所はありますか？」
ティオが手に持った黒色で三角形の機械を差し出す。
まるで猫の耳のような。
「あ！　いつも頭につけてるやつか！」
ロイドが言って、キーアもエリィも、それだ！　と気づく。
ティオが手にしていたのは、頭につけている猫の耳のような三角形の髪飾りだ。
「それ、取れたんだね」
「……キーア、おかしな誤解をしないでください。これは、センサーですから。いつもは頭に載せているだけですし、完全防水なので水洗い可能です」
「なんか、すごいね」
キーアは妙に感心してしまう。

エリィが不安そうに尋ねる。
「ティオちゃん、それ洗濯バサミで挟んじゃっていいのかしら？」
「……平気ですが、陰干しのほうがいいかと」
「それなら、階段室の陰がいいわね」
「はい」
ロイドが肩をそびやかす。
「そのセンサーとか、胸の甲を外してると、ずいぶん印象が変わるもんだな」
「えっ……おかしいですか？」
「まさか。いつもとは違うけど、どちらもかわいいよ」
「あ…………」
ティオが頬を染める。
ふう、とエリィがため息をつき、
「またそういうこと言って」
とジト目になる。
相変わらずロイドはわかっていないようで、『？』と小首をかしげる。
そんなふうに、おしゃべりしながらも、カゴから洗濯物を取って次々と干していく。
ハッ！　とティオが顔色を変える。

「な、なにをしているんですか、ロイドさん⁉」
「え？　洗濯物を干してるんだけど……？」
「どうしてロイドさんが⁉　あ……いや、今日は全員が非番の日……予想しておくべきでした！　わたしとしたことが」
　ティオが顔を赤くして、わなわなと震える。
　理由に気づいたエリィが、申し訳なさそうに言う。
「あの……ロイド、その手にしてるのは……」
「ん？　洗濯物だろ？」
「いえ、だから、それは……女の子のでしょう？」
「そりゃあ、こんな小さな下着、俺やランディが使えるわけが……」
　ぴらっ、とレースのついたショーツを広げ、そのあたりで、ようやく歩く鈍感、天然ジゴロ、超ニブちんさんも事態の重大さに気がついたらしい。
「ご、ごめん！　これ、ティオのだったのか⁉」
「誰のでもいいんです！　そういうのは、エリィさんに任せて、見なかったことにしてください！」
　そう叫びながら、ティオがロイドの手から小さな布をひったくる。
「ああ、そうか、なるほど」

「ごめんなさいね、ティオちゃん。私も気が回らなくて」
「いえ……これは本当にわたしのミスですから。エリィさんが謝るようなことでは……」
　ティオの顔は、反応したセンサーみたいに真っ赤になっている。
　キーアは不思議で仕方ない。
「ロイドがティオのぱんつ干したらダメだったの？」
「ダメということはないですが……できれば、避けたいことなんです」
　ため息まじり。
　そして、キーアも大人になればわかります、とつけ足される。
　ふぇ〜と、うなずく。
　大人の世界は複雑怪奇だ。
　どうにも居所のなくなったロイドが引き上げて、結局、洗濯物はエリィとティオとキーアで干すことに。

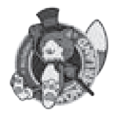


　お昼ご飯は、ティオの当番だ。
　スパゲッティを茹でて、ミートソースをかける。

手を抜いているわけではないが、ティオは料理にあまり時間を使わない。
効率よく手際がいい、という感じだ。
「ランディさんは、まだ起きてこないようですね」
「そうみたいだな」
ロイドがうなずく。
「キーアが起こしてこようか？」
尋ねると、エリィが頭を横に振る。
「大丈夫だと思うわ。お腹がすいたら起きてくるでしょう」
「はは……動物みたいだな」
ロイドが笑うと、応接スペースで寝そべっていたツァイトが、グルルとうめく。
ティオが肩をすくめる。
「……『動物の生活は、もっと規則正しい』だそうです」
「な、なるほど」
「ツァイトにも、ごはんをあげないとね」
キーアは皿に牛乳を注ぎ、パンをちぎってひたして白狼の前におく。
「ガウッ」
「えへへ……お肉は、晩ごはんにね」

ツァイトがお昼を食べはじめるのを横目に、キーアも食事に戻る。
前々から思っていたのだけれど、とエリィ。
「固いパンをあげるときは、牛乳にひたして出しているわよね。でも、鉄すら噛み砕いてしまうツァイトには、かえってやわらかくなりすぎないのかしら？」
「あ……」
「どうでしょう？　物足りないですか、ツァイト？」
ティオが尋ねると、口のまわりを牛乳で白くした白狼が、ガウッと返す。
キーアとティオはうなずく。
ふたりは動物の言葉がわかるという、不思議な力があるのだ。
「……『ぱさぱさした味は好みではない』らしいです」
「牛乳にひたしたパンは、おいしいんだって」
「なるほど、グルメ的な意味があったのね」
エリィが納得する。
神狼と呼ばれ、超然としているツァイトが、固いパンより牛乳にひたしたパンのほうが美味しいから好きというのが、なんだか微笑ましい。
おしゃべりしながら、食事は進んでいく。
ランディは起きてこない。

昼食が終わって、お片づけを手伝ったあと、キーアはツァイトの毛繕いをする。
その体毛は、毛玉のひとつもできないほど完璧ではあるけれど、櫛でとかしてあげるともっと綺麗になるのだ。
　ツァイトが目を細める。
「えへへっ、気持ちいい？」
「ガウ……」
「そう？　こっちもね」
　まふまふした尻尾まで櫛をいれる。
　そうやって、なでているうち、キーアのまぶたが落ちてくる。
　お腹はいっぱいだし。
　お日様はぽかぽかだし。
「ん……」
　まったりとしているツァイトの背に、ぽさりと頭をあずける。
　すー、とキーアの寝息。
　ツァイトは身じろぎもせず、その幼く小さな身体を受け止めている。
　静かな時間が流れて……



「じゃあ、行ってくる」
　ロイドの声に目を覚ます。
「ん……？」
　顔をあげると、ちょうど玄関にロイドとエリィの姿があって、ふと目が合う。
「あ、起こしちゃったか、キーア」
「ロイド……お出かけするの？　またお仕事？」
「いや、買い物に行くんだ」
「キーアちゃんも、いっしょに行く？」
　エリィが誘ってくれる。
「いいの⁉　じゃあ……」
　ふとティオだけは見送る側で、食堂としても使っている会議スペースに残っていることに気づく。
「ティオは行かないの？」
「そうですね。買い物はロイドさんとエリィさんにお任せして、わたしはここの掃除をす

るつもりです。たまの休みにやっておかないと、どんどん汚れるばかりですから」
「んー……じゃあ、キーアはティオを手伝う！」
「え？」
　ティオが目を丸くする。
「……キーア、ロイドさんたちと一緒に買い物に行くほうが、楽しいのでは？」
「そうかもしれないけど、おそうじ、ティオひとりだと大変でしょ？」
　じ〜〜ん、とティオが感動に震える。
　目尻に涙までにじませて。
「キーア……明日、みっしぃクッションを買ってあげます。期間限定で発売されるそうですから」
「えっ、いいの⁉　わ〜い！」
　ティオはキーアに甘々だ。
　ロイドがエリィと顔を見合わせ、苦笑する。
「はは……ちょっとくらい過保護でも、キーアは大丈夫だと思うけど……」
「むしろ、ティオちゃんの将来が不安ね」
「む……なんですか、ロイドさん、エリィさん？　おかしなことは言っていませんよ。労働に対する正当な報酬というものです」

「かまわないけど、でも俺やランディが手伝ってもなにも買わないだろ？」
「ふーむ……おふたりが、みっしぃクッションを喜んでくれるなら買ってきますが……」
「いや、それは……話が噛み合ってないような……？」
「みっしぃグッズをプレゼントして喜んでもらえるのは、わたしにとっても、ご褒美なのです」
「うーん……ティオがキーアとみっしぃのことを大好きだってことは伝わったよ」
「ふふ……それがわかってもらえれば充分です」
　ティオが満足げにうなずき、やっぱりロイドたちは苦笑するのだ。
　ロイドとエリィは買い物に出かけ、キーアはティオと一緒にまず会議スペースを掃き掃除。
　バケツに水をくんできて、モップがけ。
　最後に細かいところを拭きあげる。

　そろそろ、終わろうか——
という頃になって、のっしのっしと足音が降りてくる。

「う〜……頭、ガンガンする……」
現れたのは、ランディ・オルランド。
長身で赤毛の青年だ。すこしふらつき、壁に手をついて体を支える。
キーアは笑みを浮かべて。
「あっ、ランディ！」
「む……おう、キー坊か。相変わらず、声が甲高いな」
「なにか食べる？」
「そうだな……まず水をくれや。あと……なんか、やわらかいもんがいいな」
キーアはティオと視線を交わす。
——やわらかい食べ物‼
「あれでいいかな？」
「あれがいいでしょう……」
ランディが食堂のイスに崩れるように腰掛け、うーとか、あーとか、うめいている。そこへ、急いで用意した皿を置く。
「どーぞっ、ランディ！」
「ランディさん、お水です」
「お……すまねえな……ごくっ、ごくっ」

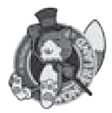
水で喉をうるおしてから、濁った目つきで皿を覗きこむ。
「ん？ ああ、パンを牛乳にひたしてあるのか」
「えへへっ」
「どうぞ……やわらかくて、ぱさぱさしてなくて美味しいかと」
「ああ、そうだな」
「ちゃんとスプーンを使ってね？」
「あー……ねえぞ？」
「そうでした、スプーンが必要でした。すぐ持ってきます」
「おう……？」
妙なことを注意されて、ランディが首をひねる。
持ってこられたスプーンを受け取り、牛乳にひたしたパンをすくう。
ティオがキーアに耳打ちしてくる。
「……大きくて、毛が長いところが似てます」
「うん。なんか今日のランディは、ゆっくりしてるしね」
小さなふたりに、まじまじと見つめられ、やや居心地悪そうにしつつ、ランディが皿を空にする。牛乳にひたしたパンは美味しかったらしい。
応援スペースのほうで、ツァイトがウォン！ と鳴いて、キーアとティオは、くすりと

笑う。
　ぐぐ〜っとランディが伸びをする。
「ふぅい〜〜〜、サンキュ……マシになったぜ」
「キーア、お茶にしましょう」
　お掃除もひと段落ということで、ティオが紅茶をいれてくれる。
　香りのいいフレーバー。
「うん！」
　元気よくうなずいて、キーアはイスに腰掛ける。
　ティオとランディと——この三人でティータイムなんて、ちょっと珍しい。
　お砂糖を多めに落とした紅茶が、キーアの前に差し出される。
「はい、どうぞ」
「ありがとう、ティオ！」
「ランディさんも……」
「ブランデーはないのか？」
「ありません。あっても出しません」
「冗談だ」

「昨夜は、ずいぶん遅かったみたいですね？」
　言われて思い出したのか、にやりとランディが笑う。
「ふっふっふっ、休みの前なんで久々にカジノに行ったら、ポーカーで大勝ちしてよ。明るくなるまでバーで大騒ぎしちまったぜ。いや〜、とうとう俺のギャンブラーとしての才能が開花したようだな」
「はぁ……カジノのうえに、朝までバーですか……ランディさん、最低です」
　ティオのジト目もなんのその、ランディは鼻歌まじりで得意気だ。
　キーアが身を乗り出す。
「ランディ、ポーカーってなに？」
「知らないのか？　よし、教えてやるよ」
「やったー‼」
「ちょっ……ランディさん⁉」
　険しい表情になったティオに、ランディが片手をあげる。
「わかってるって。ミラなんか賭けねえし、どうせカジノには入れねえ。ババ抜きや、セブンブリッジみたいなもんだ。ポーカーのルールくらい知っといても損はないだろ？」
「むー……」
「日曜学校で友だちとやってるぶんには、ただのトランプ遊びさ」

「あ………そうですね。キーア、せっかくだから教えてもらいましょう」
「いいの？」
「キーアには、そういう遊びも経験して欲しいです」
ちょっとだけ寂しそうに、ティオが微笑む。
そういえば――とランディは思い出す。とある事件に巻きこまれたせいで、ティオは子ども時代を奪われている。
友だちとのトランプ遊びなど、経験あるまい。
「ティオすけもやるか？」
「……お気遣い、ありがとうございます。でも、わたしは、夕方までに済ませておきたい用事がありますから」
「そうか」
「んじゃあ、キーアが覚えたら、こんど遊ぼ、ティオ！」
「ふふ……そうですね。負けませんよ？」
「キーアも強くなるよ！」
「ふっふっふっ……お子様たちには悪いが、俺は強いぜ？」
「ランディさん、くれぐれも……」
「わかってる、ミラなんか賭けたりしねえよ」

「キーア、悪い大人に騙されてはいけませんよ？」
「うん！」
何度も念を押してから、ティオは自分の部屋へと引き上げていく。
やれやれ、とランディが肩をすくめつつ、トランプを取り出す。
ポーカーというゲームは――



「そ、そんな……ばか、な……」
「わぁい、また勝った！」
「三連続のフルハウスだと⁉　どんだけ強いんだよ⁉　こっちに手が入ったときは、あっさり降りられるし……」
「だって、カードが強いときのランディって、ニコニコしてるんだもん」
「いや、してねえって！　それが顔に出るようじゃ、カジノのポーカーで勝てるわけがねえ！」
「そうかな～？」
「ううぅ……もしかして、癖とかあんのか……？」

ぺたぺた、と自分の顔をなでるランディ。
「えへへ、ランディ、もういちどやる？」
「やるやる」
何度やっても、ほとんどキーアの勝ちが続いてしまう。
ランディが肩を落とす。
「ううぅ……負け……ました……」
「わぁい！」
「はぁ〜」
「ランディ、ポーカーって楽しいね！」
「お、おう……ダメだ。どうやら、昨夜で運を使い切ったらしいな。しばらく、カジノに行くのはやめておくか……」
ため息まじり。
キーアはトランプを片づけておく。
「また遊ぼうね」
「おし！」
ランディが立ち上がる。
「どうしたの？　またカジノに行くの？」

「いや、もう行かないっての。ミラを賭けてたわけじゃねえが……こんだけ負けて、なにもナシってんじゃ、男がすたる。ちょっと外へ行こうぜ」
「もう夕方だよ？　ロイドとエリィが買い物から帰ってくると思うけど？」
「そんな遠出も寄り道もしねえさ。ちょっと出店を見るくらいで、夕飯までには帰るって」
「んー……」
「なにか買ってやるよ、キー坊」
「わぁ……あ……」
ばんざいしかけて、キーアが止まる。
「ん？　どうした？」
「ランディ、悪いオトナ？」
「今は、良い大人だ」
「じゃあ、行く！」
「ははは……」
外に出ると、もうお日様は傾いていて、玄関前に置いておいたパンはきれいになくなっている。
「さて、急ぐか」
「うん！」

キーアはランディに連れられて、東通りへと向かう。

露店街には夕飯の買い物をする人が溢れていて、活気がある。

「おっ、風車なんかどうだ？」

「いいの⁉」

「もちろんさ。何色にするかなあ？　一色のもあるし、二色を組み合わせたのもあるぞ」

「じゃあ、赤と緑の」

「え～っと……これか。どうして、赤と緑なんだ？」

「えへへっ、ランディとふたりでお出かけして、ランディに買ってもらったから。緑色がキーアで、ランディが赤色でしょ？」

ランディが固まる。

ちょっとだけ頬が赤くなって。

「はは……まいったな」

「あれ、おかしい？」

「いいや、そんなことねえさ。ただ、どっかの天然ジゴロみたいだと思ってよ。これで美人に育ったら末恐ろしいぜ」

「ほえ？」

「あ、いや……忘れてくれ。妙なこと言って、ティオすけやお嬢に知られると、あとが面倒だ」

「うん、わかった！　でもキーアは、ランディに買ってもらったこと覚えてるよ」

「おう」

「ロイドとお寝坊したことも、エリィに絵本を読んでもらったことも、ティオとお掃除したことも、ランディとポーカーしたことも……ぜんぶ、覚えてるから」

「……そうだな」

「そんで、キーアは美人になると末恐ろしいの？」

「そいつは本当に忘れてください」

ふたりして笑う。

支援課ビルに帰る。

途中で、特売特売と声をあげている入荷したばかりの安くて新鮮なトマトを買って。

支援課ビルの玄関扉を開けると、ロイドとエリィが出迎えてくれる。

キーアはロイドのお腹に飛びこんでいく。

「ただいま～～～‼」

「おっ、いいタックルだ」
　ロイドが笑う。
　エリィがランディに尋ねる。
「私たちも、今、帰ったところなんだけど、ランディたちも出かけてたの？」
「たんなる散歩さ」
「そう——あら？　それ、もしかしてトマトかしら？」
「なんか安く売ってたもんでな」
「東通りの露店街じゃない？」
「なんで知ってんだ？」
「私たちも、ちょうど買ってきたところなのよ」
「げ……」
「アルモリカ村から、たくさん入荷したみたいね」
「はは……今夜は、トマトがいっぱいだな」
　ランディが苦笑して、エリィが頭をかかえる。
　いくら安かったとはいえ腐らせるのはもったいない。冷蔵庫なんて飲食店の厨房にしかない。
　芋や青物などに比べると、トマトは傷みやすい野菜なのだ。

　ロイドが首をひねる。
「うーん、さすがに夕飯が山盛りトマトというのは、厳しいな」
「うへ、かんべんしてくれ……」
　四人で思案していると、ティオが自室から降りてくる。用事は終わったらしい。
　ふた袋もあるトマトを見て、いぶかしむ。
「今日は、なにを作るんですか？」
「実は、それを悩んでるんだよ」
　ロイドの説明に、ますます不思議そうな顔をする。
　キーアは、ぽんと手を叩く。
「ミネストローネにしようよ！」
　ああ、とエリィだけが表情を明るくする。ロイドとティオとランディは首をかしげて。
「なんだい、それは？」
「聞いたことありません」
「トマトを使った料理なのか？」
　エリィが説明を引き受ける。
「え～っと、この絵本に出てきたの。たくさんトマトを使う鍋料理らしいわ」
「そうだったのか……でも、レシピがないと作れないんじゃないか？」

ロイドの疑問に、エリィが弱った顔をする。
ティオが会議スペースに置いてある導力ネットワーク端末へと向かう。
「凝った料理は無理ですが、基本的なレシピであれば、調べられるかもしれません」
「まあ、そんなことができるの⁉」
「ネットワークは日々、拡大中です。トランプ遊びのルールだってありますよ」
「ほー」
ランディが感心した声をあげる。
おしゃべりしながらも、ティオの指先は高速でキーを叩く。
「将来的には図書館の本をすべてデータ化するプロジェクトもあります。そうなったら、あの膨大な本の山から、ひとつの言葉を探すことさえ一瞬になるかと」
ロイドたちは驚いて声をあげる。
「すごいんだな、導力ネットワークって」
「本当ね、捜査にも役立ちそうだわ。まぁ、私は本の形も好きだけれど……」
「はい。本は本の形で楽しみたいというひとも多いです……ん？　あ、これではありませんか？」
端末の画面に、本当に簡単な調理手順が表示される。
レシピというよりは、異文化の紹介という趣のデータだが。

エリィが熱心にうなずく。
「なるほど……そういう料理なのね。全部の材料があるわけじゃないけど、代わりは用意できそうだし、これならすぐに作れそうよ」
「わかった、作り方はエリィに任せるよ。手伝うから、なんでも言ってくれ」
「じゃあ、まずはトマトを洗ってもらおうかしら」
「よし」
「キーアも手伝う！」
「もちろん、わたしも……」
「ふふ、ありがと。ほら、ランディもトマトを洗うのよ？　なに雑誌を持ってソファーに腰掛けてるのかしら？」
「うっ……」
ランディが肩をすくめ、ロイドやキーアが笑みをこぼす。
みんなで料理する。
絵本で見たミネストローネ。
赤いスープができあがる。

支援課ビルの玄関が開けられ、タバコをくわえたヒゲの男が入ってくる。
キーアは厨房から顔を出す。
「あっ、かちょー、お帰り！」
「おう……」
セルゲイ課長だ。この特務支援課の責任者で発起人である。
「なんだか、いい匂いがしてるな？」
「うん！」
「ミネストローネです。トマトのスープなんですよ」
エリィが答えると、彼はタバコをくわえたまま唇の端をゆがめる。
「また変わったことをしてるな」
セルゲイ課長は、ロイドたちが普通でないことをするのが、むしろ楽しみのようで、小さな笑みを浮かべる。
ミネストローネをティオが皿によそって、ランディがテーブルに運ぶ。
ロイドはパンを切る。

初めて作る料理でお疲れのエリィは、もうイスに座って待つ側だ。
支援課ビルの屋上を寝床にしている猫のコッペと、白狼のツァイトに茹でたお肉をあげてから、キーアは席につく。
ニンニクとオリーブオイルの香りが、やたらと食欲をかきたててくる。
目の前に置かれた赤色のスープ。
「おいしそ～」
「みんなの、お口に合うといいけど……」
エリィが不安げにつぶやく。
全員が席について、手を合わせる。
今日の糧（かて）を女神（エイドス）に感謝して。
ミネストローネをスプーンですくうと、口に運ぶ。
一瞬、静かに。
キーアは笑みをはじけさせる。
「おいし～～～!!」
うん、とティオがうなずく。
「これは、なかなか新鮮な味です。それでいて、懐かしいような食べやすい料理ですね」
「いいんじゃねえか？　鶏肉にも味がしみてるし、こういうのは好みだぜ」

いつもは料理の感想など口にしないランディが、珍しく饒舌だ。
ロイドも満足げにうなずく。
「パンにつけても美味いな」
ほっ、とエリィが安堵の吐息をこぼす。
セルゲイが、ふぅ～とスープに息をかけてから口に運ぶ。
「日が沈んでから、ちょっと冷えこんだが……こいつは体が温まるな」
キーアはエリィと顔を見合わせ、
「絵本といっしょだね」
「ふふ、そうね」
と笑みを交わす。
濃厚ミネストローネは大成功だ。

ざあ～っ、と流れるお湯。
けむる湯気。
キーアはティオと一緒に湯船(バスタブ)につかる。

洗い場ではエリィが石けんを泡だててお肌をきれいに磨いている。
今日は、三人でお風呂だ。
エリィは手足が長くて、腰が細くて、スタイルがいい。
「ほぅ……」
隣で、キーアと同じようにエリィを眺めていたティオが、ため息をこぼす。
「きれいです」
「うん」
「しかも、ぐらまーです」
「おっきいね」
「あそこまでのは、大人の女性(ひと)でも、なかなかいません」
「ティオはちっちゃいもんね」
「うっ……あ、いえ……わたしは……こ、これからなので」
意外と真剣な表情だ。
頬を赤くしてエリィが咳払いする。
「オホン……な、なんの話をしてるのかしら？」
「……発育(レベルアップ)に関する……女神様の不条理と未来への希望についての考察でしょうか？」
ティオが視線をそらし、キーアは元気に声をあげる。

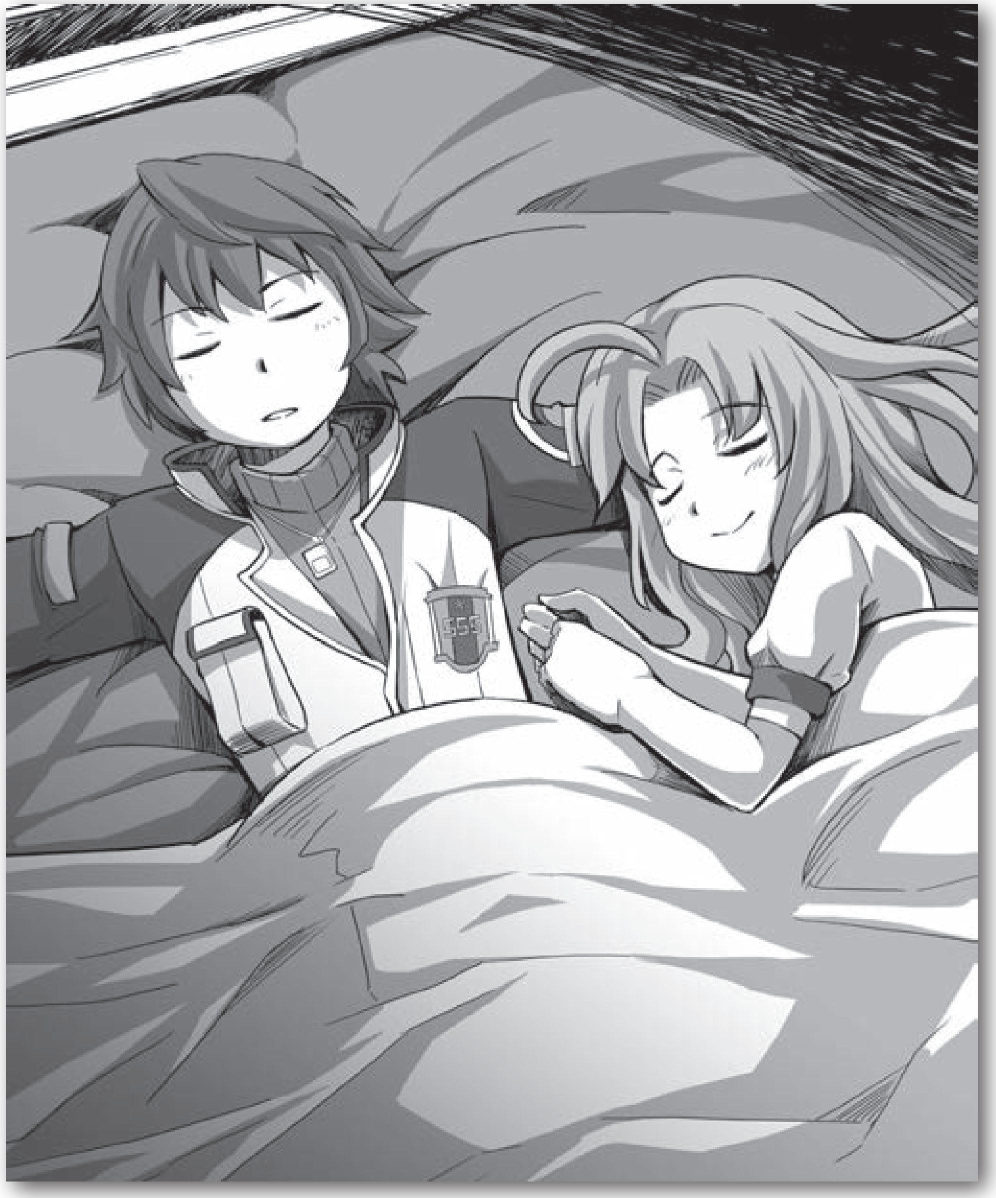
「おっぱいの話だよ！」
「はぁ……そんなこと気にしなくていいのよ」
　眉をひそめたエリィが、両手で隠す。
　ティオがブツブツと物質の構成因子のゆらぎについて不平不満をのべる。
　ぽつり、とキーアはつぶやく。
「でも、大きいほうがいいんでしょう？」
　どういうこと⁉　とエリィとティオが身を乗り出す。
「なっ……だ、誰が言ってたの⁉　まさか、ロイドが⁉」
「そうなんですか⁉　一大事です」
「ううん。前にランディが言ってたの」
　空気が緩む。
　エリィが、ため息をひとつ。
「やあね……」
「ランディさん……アイスハンマーの刑です」
　拳をにぎったティオが、まったくもって容赦ない。
　エリィがキーアを手招きする。
「キーアちゃん、ばかな人の言うばかなことを覚えてなくていいのよ。髪を洗ってあげる

からいらっしゃい」
「はーい‼」
「あっ、キーアの髪は、わたしが……」
「そう？　じゃあ、私はティオちゃんの髪を洗ってあげるわね」
「わ、わたしは……そんな子どもではありません」
「ふふ、いいじゃない」
「む……これが、バスト・ヒエラルキー……？」
「そ、そんなんじゃありません！　もう、あんまり言わないでちょうだい。恥ずかしいんだから」
「なるほど……悩みは人それぞれですね」
「えへへっ、ティオ！　髪、洗って！」
「もちろんです」
「ほら、ふたりとも、こっちいらっしゃい」
「……エリィさん、本当にわたしの髪を洗うんですか？」
「たまには、いいでしょ？」
「……ひとに髪を洗ってもらうなんて……ひさしぶりです」
「うふふ……ティオちゃんの髪、すっごいなめらか。絹みたいだわ。うらやましいな」

「エリィさんの髪もきれいですよ？」
「そう？　ありがとう」
「キーアは？　キーアは？」
「きれいですよ。ちょと跳ねてるのが、元気よくてかわいいです」
「そうね。ライムグリーンの色も似合っているわ」
「えへへっ」
梳くように髪に泡をなじませる。指の平でなでてから、お湯をかけて流していく。
大切に。
綺麗になるように。

お風呂からあがったキーアはロイドの部屋に行く。
ドアを開けると、ブラウンの髪の青年がベッドのうえに寝転んで、本を読んでいる。
「ロイド、おじゃま？」
「やあ、キーア。そろそろ寝るところだよ」
そう言いながら、ロイドはエニグマの隣に本を置く。

「いっしょに寝てもいい？」
「今日もかい？　もちろん、いいよ」
「やったぁ！」
だーっとベッドに走っていき、寝転んでいるロイドに飛びこむ。
どん！　と受け止められる。
「おっ、いいダイビングだ」
「えへへっ」
毛布をかけて、お互いの体温であたたまる。
ロイドが手元のスイッチで明かりを消す。
窓からの月光が、かすかにふたりの顔を照らして、青い。
やさしげな顔と間近にある息づかいに、心が落ち着く。
「今日は、楽しかったかい、キーア」
「うんっ。ロイドは？」
「ひさびさに、よく休めたよ。エリィと図書館に寄ったんだけど、居眠りしちゃったみたいだ」
「あはっ」
「でも、探していた本が見つかったし、よかったよ」



「さっき読んでた本？」
「ああ……昔、兄貴が読んでいたんだ」
「そうなんだ」
「さ、もう寝ようか……明日も早い」
「えへへ……寝坊しないようにしないとね」
「はは……今朝は大慌てだったからな」
「おやすみ、ロイド」
「ああ、おやすみ、キーア」
　やわらかな声。
　静かに目を閉じる。
　ゆっくりと、キーアは、眠りに落ちていくのだった。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント！ ※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.143プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）

2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から１つずつ）

3：アンケート①『イースX』の第一印象は？
　アンケート②『イース』シリーズの好きなBGMは？

4：希望するプレゼント番号

5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：イースX最新情報
2：も～っと集まれ！ファルコム学園
3：英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～
4：ファルコムニュース
5：暁の軌跡最新情報
6：英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

応募締め切り　1月27日（金）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



◉フィールドワイ公式HPはこちら➡ www.field-y.co.jp
◉ファルコムブックス公式HPはこちら➡ www.field-y.co.jp/falcombooks



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.143

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/

Copyright	©Nihon Falcom Corporation.All rights reserved. ©2022 FIELD-Y ©DAISUKE ARAKUBO 2022 ©SHINKI KITSUTSUKI 2022

Falcom 日本ファルコム(株)のライセンス許諾商品です。